

Fellowship for the Advancement of Radiology

情報誌

**F A R**

31 号

事務局: (社) 日本放射線技術学会事務局内

〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 ビューフォート五条烏丸 3F

TEL:075-354-8989. FAX:075-352-2556 / <http://www.jsrt.or.jp>. Email:office@jsrt.or.jp

《ごあいさつ》

10周年記念事業へのご協力に、感謝、感謝。

副会長 四宮恵次



平成23年の初めからご紹介いたしております「FAR会 10周年記念事業」につきましては、会員皆さんの絶大なご協力と、役員、世話人の情熱により、順調に進められており、ここに改めて御礼申し上げます。

事業の取進め状況は、現在進行形でありますので、その詳細は控えさせていただきますが、10月30日の「2011 淡路島を巡る旅」夜に行われる“10周年記念懇親会”にその全容をご披露出来るものと思います。そして皆様と共に、手作りの記念誌の温かみと、10年間の足跡を辿り、語り合えることを楽しみにして居ります。

振り返って記念誌の原稿を拝見しますと、“この10年間、心に残る思い出”の執筆を「FAR会設立から10年間、なんでも結構です」とお願いしたところ非常に広範囲の原稿が集まりました。即ち、FAR会に関する思い出話、懇親会の思い出、事務局の思い出、東日本大震災への思い、などでありましたが、やはり“東日本大震災や原発事故”に関わる記事が多かった事が印象付けられます。被災地、被災者の皆さんの一日も早い復興を願うと同時に、今こそ経験豊かなFAR会員として協力できることは無いかなど、淡路島での再会を機会に意見交換をしたいとも考えます。

神澤懇親会代表世話人は、多くの世話人と共に念入りに下見をされたと聞いております。是非「2011 淡路島を巡る旅」に参加を申し込んで下さい。そして一人でも多くの方々と懇談できることを願っております。

なお、今回の記念事業推進に関しましては、FAR会のメーリングリストを最大限に利用させて頂きました。しかし、メーリングリストを平成22年4月に開設し、1年4ヵ月経ちましたが、7月20日現在の利用回数は延べ128回（月平均8回）しか利用されたに過ぎません。

会員間の情報交換、趣味のお誘いなど、軽い気持ちでより一層“おしゃべり”をして頂ければ宜しいのではないかと思います。

まだ登録をして居られない方は、草山さんのメールアドレス、(kusaya@ceres.ocn.ne.jp) に是非申し込んで下さい。そして有効に利用頂ければ幸いです。

内 容

- |                          |          |
|--------------------------|----------|
| 1. ごあいさつ                 | 副会長 四宮恵次 |
| 2. 「2011 淡路島を巡る旅」        | 神澤良明     |
| 3. 神戸秋季学会へのお誘い           | 船橋正夫     |
| 4. 会員動向                  |          |
| 5. 特集「私の隠れ家」             | 伊藤博美     |
| 1)、お盆の雑感                 | 小松明夫     |
| 2)、息を抜けると身近に             | 遠山坦彦     |
| 3)、突然の独居老人生活             |          |
| 一年が経過して                  | 前越 久     |
| 6. 会員投稿 (寄稿)             |          |
| Hallstatt (Austria) 再訪写真 | 山 哲男     |
| 7. JSRT 情報               |          |
| 8. 第 32 号 {特集} 原稿募集      |          |
| 9. 連載 (ご当地自慢 わが街 札幌)     |          |
| 萩原康司                     |          |
| 10. 編集後記                 | 伊藤博美     |

## 《 2011 秋のFAR 会 》

### 「2011 淡路島を巡る旅」 (10周年記念懇親会) へのお誘い

世話人：代表 神澤良明、藤田 透、清水久子

2001 年にFAR 会が神戸で発足し、2002 年には発会記念パーティも神戸で開催と、FAR 会にとって神戸は縁がふかい街です。今回の秋季大会は久々に神戸で開かれる学術大会でもあり、神戸から行ける神秘的な淡路島に皆様をご案内したいと計画しました。淡路島の全てはお見せできませんが、魅力の一端をお楽しみ頂ければ幸いです。

淡路島の北は明石海峡大橋（全長3,911m 世界最長の吊り橋）、南は大鳴門橋（全長1,629m）で本州（神戸市）と四国（鳴門市）につながり、大鳴門橋からは鳴門の渦潮を眼下に遠望することができます。

また、温暖な気候と豊富な食材や豊かな海の幸で旅の夕べを楽しませてくれると確信しています。日本神話の国産み・神産みに登場する伊弉諾（いざなぎ）尊、伊弉冉（いざなみ）尊を祀る伊弉諾神宮など一見の価値があります。伊弉諾神宮のある淡路市一宮町は古くから線香の製造が盛んで、その生産量は、全国生産量の七割です。

このような線香製造工場の見学、そしてお香作り体験なども計画しています。多くの方々のご参加をお待ちしています。同伴者の参加も大歓迎です。どうぞ、お二人で参加ください。

今回の旅行は10周年記念懇親会でもあり1泊3食を皆様と共にすごしたいと思います。2日目の 昼食はイタリアンレストラン・ポンテメールを全館貸し切りしました。ワインと素敵な料理をお楽しみ下さい。

特にオプションを設けていません。全ての行程が会費に含まれています。最後まで行動を共にしていただけたらと計画しました。

#### 記

開催日：平成23年10月30日（日曜日）～10月31日（月曜日） 一泊二日 3食付き

集合地：国際会議場 正面玄関 13時50分

宿泊地：夢海遊 淡路島（兵庫県洲本市） <http://www.yumekaiyu.com/>

〒656-0024 兵庫県洲本市山手1-1-50(大浜海岸) TEL(0799)22-0203

観 光：大鳴門橋・渦潮（道の駅 うずしお）、香作り 体験（一宮 薫寿堂）

伊弉諾神宮参拝（一宮）

参加費：会員25,000 円（会員助成有）、非会員30,000 円

日 程：10月30日 午後2時 国際会議場正面玄関出発 \*\*\*\*\* 午後3時30分頃宿泊地到着、  
ゆっくり温泉を満喫 \*\*\*\*\* 午後6時 10周年記念懇親会

10月31日 8時出発 \*\*\*\*\* 大鳴門橋・渦潮 \*\*\*\*\* 一宮町 薫寿堂 見学・お香作り

体験、伊弉諾神宮参拝 \*\*\*\* 淡路ハイウェイオアシス レストラン・ポンテメールで昼食  
午後2時頃 新神戸駅（新幹線）、三宮（空港バス）到着 解散

申し込み方法：同封のハガキでお申し込み下さい。

お問い合わせは神澤良明までお願いします。



## 《秋季学会へのお誘い》

### 2011 異国情緒の神戸・淡路島への旅 ー歓迎のご挨拶ー

第 39 回日本放射線技術学会秋季学術大会 大会長 船橋正夫



FAR 会の神戸開催に際しまして、歓迎のご挨拶を申し上げます。

第 39 回秋季学術大会は、2011 年 10 月 28 日(金)～30 日(日)の 3 日間、異国情緒溢れる神戸市の神戸国際会議場にて開催致します。近畿での学術大会の開催は 2004 年の第 32 回大阪秋季大会以来、また神戸では 2002 年の総会以来となり、懐かしい思い出深い地に再度学術大会が訪れることになりました。

今大会の応募演題数は 396 題、採用演題数 369 題、不採用演題数 27 題と多くの演題をご応募頂きました。現在技術学会では委員会や小委員会の改編を行っており、今回の大会が新生プログラム小委員会の初仕事となりました。学会として育てることを主眼とした大会運営から、育てながら全体のレベルアップを図る時代へと進化しようとしており、それは不採用 27 題に象徴されています。

今回の学術大会をきっかけとして会員の意識を変革し、国際社会に認められる学会へ歩みを進めたいと考えております。

第 39 回大会のメインテーマは「明日に架ける橋ー生命(いのち)の光を技で紡ぐー」としました。技術学会が扱う光は多くの場合見えません、しかし患者の身体から多くの情報を私達にもたらししてくれます。

なぜなら、その光は生命を通り生命を写すものだからです。人の生命を通ってくるわずかな光を受止め、生命の姿として紡ぎ出す技術こそが、放射線技術学の原点と考えテーマといたしました。

ではここで大会企画をご紹介します。特別講演は小型人工衛星“まいど 1 号”を打ち上げた東大阪宇宙開発協同組合(SOHLA)専務理事の棚橋秀行氏にお願い致しました。東大阪市という小さな町のおやじ達が人工衛星を打ち上げようと夢を掲げ、実現に向けて奔走し、打ち上げに成功したという実話は、私たちや日本に勇気と元気を与えてくれました。ぜひ元気を掴みに会場へ足をお運び下さい。

また、実行委員会企画として緊急討論会を開催致します。テーマは「検証：東日本大震災から学ぶ」。パネラーとして、放射線医学研究所 島田義也先生、救急救命医師 中森靖先生、(社)福島県放射線技師会会長 鈴木憲二先生、以上の 3 人の先生方の体験をもとに、これからあるべき防災と医療のあり方を模索したいと思います。

今回の秋季大会では第 1 回国際放射線技術科学会議(ICRST)が併催されます。会員が広く世界に目を向け、大きく羽ばたくための試金石となる大会です。小寺吉衛大会長の下、講演も質疑も全て英語の世界をご覧ください。

新しい次世代学会の姿を見ていただけるものと確信しております。

情報交換会は 10 月 29 日神戸花鳥(かちょう)園で開催致します。美しく咲き誇る花々と鳥たちのハーモニーを満喫して頂ければと思います。

淡路島では温暖な気候にゆったりと旅の疲れを癒し、瀬戸内海の豊かな海の幸に舌鼓を打ち、豪快な鳴門の渦潮をご堪能頂けたらと思います。

最後に、FAR 会の皆様の神戸・淡路島へのお越しを(ビールをキンキンに冷やして)実行委員一同心よりお待ちしております。

~~~~~

## 《会員動向》

『会員数』 100 名(平成 23 年 7 月末現在)

『新入会』 平成 23 年 6 月入会：本間龍夫氏 愛知県名古屋市長(オリオン電機株式会社社長)

平成 23 年 7 月入会：久保昌博氏 京都府京都市(JSRT 元財務担当理事)

## 《会からのお知らせ》

『平成 23 年度 第 1 回運営・総務合同委員会』(平成 23 年 7 月 21 日、22 日 熱海・金城館)

山田勝彦副会長 以下 6 名出席

## 議題

### 1. 10 周年記念事業関係

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1) 記念事業計画の進捗状況確認、 | 2) シンボルマークの予備選考、   |
| 3) 記念誌の進捗状況の確認、   | 4) 協賛募金、協賛広告の応募状況  |
| 5) 記念誌の編集構想と最終確認、 | 6) 記念誌印刷業務の取進めについて |
| 7) その他、関連事項       |                    |

### 2. 通常業務関係

- |                                               |                              |
|-----------------------------------------------|------------------------------|
| 1) 月次会務報告・収支会計報告、                             | 2) 情報誌関係 ①第 31 号関係、②第 32 号関係 |
| 3) 懇親活動関係                                     |                              |
| ①「2011 淡路島を巡る旅 —10 周年記念懇親会—」 ②「2012 懇親の夕べ」の企画 |                              |
| 4) 広報活動と担当確認、                                 | 5) 新入会の勧誘策について               |
| 6) 23 年度第 2 回役員会議の開催                          |                              |
| 日時：平成 23 年 10 月 30 日 正午より 場所：神戸国際会議場内（予定）     |                              |
| 7) その他                                        |                              |

## 《特 集》

### 「私の隠れ家」

第 31 号特集のテーマを「私の隠れ家」とさせていただきました。「長い人生の間には、フーと息を抜ける、心の安らぎを与えてくれるところ、静粛で、しかも自分だけの時刻（とき）を過ごせる場所をお知らせ下さい。」と言うことで原稿募集致しましたが、隠れ家などお持ちでないか、あるいは、在っても明かしたくないか。のどちらかのせいで、原稿が集まりませんでしたので、やむなく、題名不問でお願いしました。締め切り間際に原稿をお寄せいただいた皆様にお礼を申し上げます。

（特集企画 伊藤博美）

### 「お盆の雑感」

出雲市 小松明夫



「国破れて山河あり」（杜甫）

8 月 15 日（月）、病院はお盆休み（夏季一斉休業）。家で妻に掃除機のノズルで突かれながらトドのようにごろごろしていると今日が終戦の日であることに気がついた。私は戦後の団塊の世代より更に後の生まれで、戦争の話は主に母から聞かされて育った。戦争中の両親は学徒動員の日々で、母は飛行機の燃料となる（？）松ヤニを採取するのが日課で、父はどこかの海岸（はっきり言わない。）で穴を掘っていたそうで、お腹が何時も空いていて畑の野菜を調達（盗み？）して食べていたそうです。どちらかと言えば滑稽な話が多い中、母が語る広島原爆の話は、やはり印象に残る。

66 年前の 8 月 6 日朝、若かりし母が居間で掃除をしていると辺りが瞬間真っ白に光り、2～3 分してドーンと重たい音がし、その後、広島方向から真っ黒い雲が立ち上るのが見えたそうです。母の実家は広島市から直線で 60km のところに在り、その日の昼ぐらいに広島市が爆弾でやられたと聞き、夕方には軍のトラックが広島方面へ向かうのを見、その翌朝、そのトラックが帰り、近くの学校が休憩所となり、ものすごい光景を見たと言う。母の話はいつもここで途切れ、終わってしまう。

「山河破れて国あり」（五木寛之）

3 月 11 日（金）、地震と津波を引き金に引き起こされた福島第一原子力発電所の事故は、五木寛之氏に「第二の敗戦」と言わしめる程、日本に大きな打撃、衝撃を与えている。西日本にいる私自身はか



なり楽観的だが、福島県でのサーベイに派遣された本院放射線技師の報告では「明らかにBGが高い状態の中に日常がある。」であり、見聞すれば様々な物、場所から「セシウム」が出てきている。五木寛之氏は更に「放射能と共存する時代」と言い、その言葉の重さに身震いがする。

今回、「安全」と「安心」の狭間で苦悩して人が多くいると思う。長期的な低線量被ばくが人体に与える影響をどの視点で認識するかで随分と違うように思うが、元を質せば、本来あってはならない原子力発電所の放射性物質がいたる所にあること事態が最大の問題であり、誰も受け入れることができないことである。その前で「安全」を説いてもかなり無理があるのではないかと思う。しかし、高濃度汚染物質の行き場所もなく、また、完璧な除染などあり得ない今、選択肢を明示し、各々の判断で「放射能と共存の時代」へ入っていくことになるだろうと漠然と思う。

「山河破れて国もなし」（作者不明）

五木寛之氏は続けて「公の不信、亀裂は深刻」と述べ、自らの判断を最優先にするべしとしている。それを聞いて「国もなし」と言った人がいるようだが、誰か言ったのかはつきりしない。しかし、今回ほど被ばくの説明が人により大きく違うことに私自身も驚いた。もっと収斂されているものと思っていたが、そうではなく、しかもそれは医療被ばくのことにも飛び火している。比較のために示されるCT等の被ばく線量は、正当化と最適化の上での数値で性質が違うにも関わらず同列に扱われ、数値が一人歩きしている感がある。そのような中、技術学会が福島市で市民公開講座「放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座」を7月10日に開催したと聞いたが、どのような内容になったのか、大きな関心を寄せている。また、9月10日に広島市で中国・四国部会市民公開セミナー「医療被曝を再考する」が開催されることにも大きな関心を寄せている。自らの判断を正しいものに導くためにも多くの良質の情報を得たいと願う今年のお盆であった。

## 「息を抜けるところは 身近に」

相模原市 遠山 坦彦

今回の特集テーマに応じて歓迎されるような「隠れ家でカクテル一杯の息抜きを・」「オープンテラスでコーヒ一飲みながら・・・」そして「シューベルトを聞きながら・・・」などと、しゃれた生活スタイルの持ち合わせは無く、期待に添えないこと申し訳ありません。

日常から離れた旅行を終えて帰宅した時、安堵感を抱かせるのは我が家であり、何故かホッとします。一日の仕事を終えて帰宅した玄関を開けるときの安堵感もいいものでした。疲れた神経を苛立てる声の飛んでくることも無いわけではありませんが。我慢して、靴を脱ぎます。現在は、定期便帰宅シーンの無い生活になりました。

入浴剤を溶かした風呂にゆったりと身を沈め、何を考えることもなく、思い切り身体を伸ばせるトキも極上です。これは今も変わりません。



親父が言っていました。「寝るほどの楽を三つ欲しい」と。実感しています。枕下にメモ書きの用意が欲しいと思う日々は遠くになりました。けれども、このような原稿を書かざるを得ないときには早く寝つけるようにメモの用意が要りますね。

静粛に自分だけのトキを過ごせる場が我が家の中にありました。狭い部屋で座る、定例の朝の一刻です。ここでは、出勤して何をするか、整理する場でもありました。このトキを乱されたり、パスすると不愉快な一日が待っていたものです。その思考と整理が、今は不要になりました。今日の曜日さえ忘れる平凡な生活に浸っ

て居ります。

こう書いてくると起伏の乏しい毎日であることが認められます。そんな穏やかな日々、ホッとするよりハッと気づくことが多くなりました。

ウォーキングに努める脚力が一例です。いつの頃からか運ぶ脚を煩わしく感じ、真っ直ぐ歩くには集中力の必要なことに気づいたことです。西部劇スター・ジョンウェインの大股に歩く姿はかつこよかったな〜。と真似てみようとする自分が滑稽になります。動線の極端に短いイス生活のツケか、避けがたい老化によるものか。腕力など日常使わない身体機能の低下を気づいた時には、回復が手遅れなのかもしれませんね。

感じはじめた衰えのサインに抵抗しながら、どこで折り合いをつけるか。考え込みます。プレイすることが夢と消えた高知のホームコースで「バンカー越えに 200 ヤード打って下さい」と言われたあのホール。今ではバンカー打ち込みどころか、届かない自分にガッカリするだろうな。息を抜けるところは身近にあり、気を抜けないことが身近に迫っている。という今回の話です。

写真は、2011.8.5-7 開催、第60回橋本七夕まつりを背にした筆者。我らが集合住宅裏口は歩行者天国に。露天など盛大なことにびっくり、歩く人の多さに更に驚き。3日間終演に繰返し放送される“蛍の光”が印象に残った。

## 「突然の独居老人生活一年が経過して」

名古屋市 前越 久



昨年の夏、家内を亡くしてから身の回りのことは一から十まですべて自分でやらねばならないことになってしまった。結婚して45年間にもわたり毎日、毎日、家内にこんなに世話になっていたのかとの思いをしみじみかみしめながらほぼ1年が経過した。こんなことになるのならもっと手伝い、色々と教わっておけばよかったと後悔ばかりの毎日である。

炊事・洗濯・掃除は欠かすことができない日常の仕事である。中でも3度の食事は必ず回ってくるので生きていくためには省略するわけにはいかない。

従来は7:00起床であったが、現在では6:30起床である。月曜日と木曜日は可燃ごみの収集日のため、生ゴミなどは指定されたゴミ袋に入れて自宅前を出しておかねばならない。夏はこのゴミ出しを忘れると悪臭で大変なことになる。火曜日はプラスチック容器包装類と牛乳パック、ペットボトル、空き缶・空きびん等の収集日である。一人住いであるが1週間分をまとめると随分の量になるものだ。秋にはわが家の前の歩道の街路樹が紅葉し落ち葉が一面に積もるので、竹箒でかき集めなければならない。45リットルの可燃ごみの袋が毎朝一杯になる。これが1週間以上つづく。冬は雪でも降ると、少なくとも自宅前の歩道の雪かきはしておかなければならない。わが家の前の歩道は通勤者、通学者らの人通りが多いので7:00までに落ち葉の処理や、除雪をしておく必要がある。名古屋では多くても積雪は10cmくらいではあるが慣れぬ除雪は大変である。これらが朝食前の仕事である。家内が何時もやっていたことなので、「女房が亡くなると家の前が汚くなるものだ」となどという風評が起らないようにと意地をはって頑張ってやっている。“朝めし前”と簡単には片づけられない難儀なデューティーではある。

7:30頃から朝食の支度である。家内の作る朝食は、赤だし味噌汁、納豆、カチリチリメンジャコ入り大根おろし、漬物とちょっとした惣菜などが食卓に並んでいたように思う。味噌汁の具は、わかめ、豆腐、玉ねぎ、なめこなど日替わりで気遣ってくれていたようであった。外食をあまり好まない私は、家内がやってくれたと同じような献立で、自分で朝食の準備をするには、先ずスーパーで食材の購入からしなくてはならない。今までは、新聞広告といえば電気屋さんの広告くらいしか見ていなかったのに、現在はスーパーの食材の広告を真っ先に見るようになった。水曜日は野菜類が安いとか、木曜日と日曜日は卵が安いとか、自然と経済観念も発達してきたように思う。モヤシやブロッコリーは安く栄養豊富であると聞くから必ず買うようにしている。かつての共同研究者であり、やはり名大を定年退職した友人が私と会うたびに色々と気遣って食事に関してアドバイスしてくれる。「さっと茹でて冷蔵庫に保管すれば4〜5日は大丈夫だぞ。」などと自分は女房が健在なのに調理のことを良く知っているのには驚かされる。“もやし”は確かに生のまま冷蔵庫に入れておくより日持ちはよいようである。

昼食は食パン、バナナ、目玉焼きに牛乳と出来るだけ簡単にすませている。問題は夕食である。なかなかレパートリーは広がらない。もともと料理はあまり好きではなく勉強もしないからであろう。しかし、最近カボチャの煮つけはだいぶ上手になった。料理酒に醤油少々、砂糖は多めで家内の味に近づいたように思う。ハンバーグは息子の嫁が1個づつサランラップに包んで5〜6個を冷凍しておいてくれるので囲碁で帰りが遅い時は助かる。

麺類も何とかこなせる様になった。先日初めて、名古屋名物の鶏の手羽先のから揚げに挑戦した。しかし緊張してやっているうちにお腹がふくれてしまった。私にとって、一人住いになって一番何とかならぬものかと感じるのは食生活である。一人で食べていても何となく空しく、まずい！。霞を食べて生きることが出来ればそれが一番良いなどと思ってしまうこの頃である。

~~~~~

## 《会員投稿》

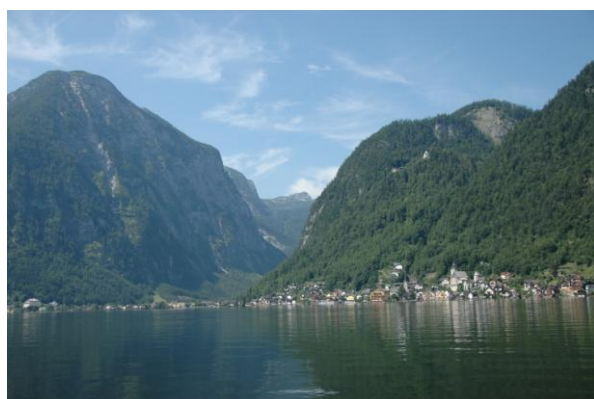
### Hallstatt (Austria) 再訪写真

京都市 山 哲男

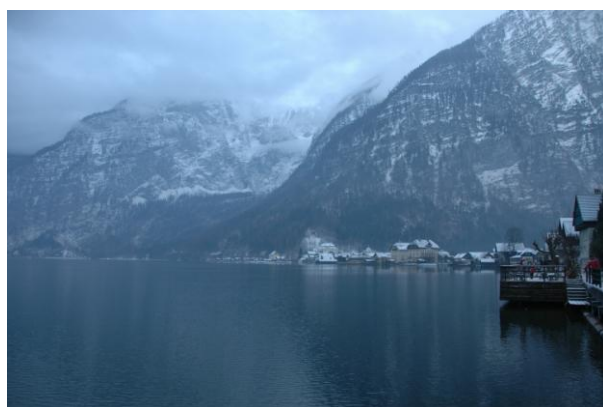
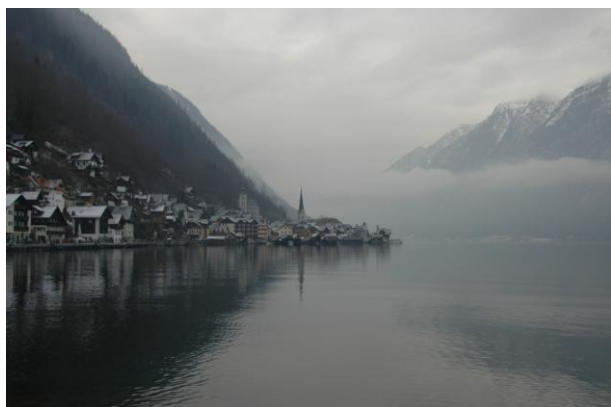


Hallstatt はオーストリア・アルプスの麓の湖水地帯ザルツガンマーグート地域の最奥に位置する景勝地で、「ハルシュタットとダッシュタインの文化的景観」として1997年に世界遺産に登録させたハルシュタット湖の湖畔の小さな町です。私は2009年1月に一度訪れていますが、その時は丁度元旦の日で空はどんよりとした雲に覆われ、時々雪が舞い落ちる冬景色でした。今回、7月1日より7月12日までウィーンを再々訪問の機会がありましたので、夏空の下 Hallstatt の景色を眺めたくて Salzburg 再訪の途中に訪れました。

Hallstatt へは Wine 西駅から Salzburg 方面行きの鉄道（急行）で Attmang-Puhheim 駅まで行き、同駅で支線に乗り換え Hallstatt 駅で下車します。Hallstatt の駅は湖を隔てて町の対岸にあり、駅より湖畔まで坂道を下ると渡し船の棧橋があり、そこから船に乗って町に渡ります。前回2009年の時は知人の車で行った関係で湖上よりの景色が見られなかったが、今回は湖上からの素晴らしい眺めを楽しめた。



夏の **Hallstatt** (2011年7月7日撮影)



冬の **Hallstatt** (2009年1月1日撮影)

## 《JSRT 情報》

### 『第 39 回秋季学術大会』

大会テーマ「明日に架ける橋ー 生命の光を技で紡ぐー」

大会長 船橋正夫（大阪府立急性期・総合医療センター）

会 期 平成 23 年 10 月 28 日（金）～30 日（日） 会 場 神戸国際会議場

### 『第 68 回総会学術大会』

大会テーマ「

大会長 土井 司（大阪大学医学部付属病院）

会 期 平成 24 年 4 月 12 日（木）～15 日（日） 会 場 パシフィコ横浜会議センター他

~~~~~

## 《原稿・作品募集》

〔第 32 号特集テーマに対する原稿募集〕（1 月 15 日発行予定）

□■□■□「私のお薦め情報」□■□■□■

次号のテーマを「私のお薦め情報」とさせていただきます。

皆様には、日頃取り込んでおられる仕事、日常生活、地元の行事、趣味などの中で、是非とも FAR 会の皆さんにも知って欲しい情報、自慢したい情報、感激した情報、役立つ情報など、必ず在ることと思います。そのようなお薦め情報を是非ともお寄せいただきたくお願い申し上げます。気楽にご投稿していただけるよう期待いたしております。

特集企画 速水昭雄

### 記

原稿内容：副題（ご自由な題をお付けください）。

原稿文字数：800～1200 字（400 字原稿用紙で 2～3 枚程度）。

写真：先生の写真（上半身）及び内容に関わる写真を原稿に添えてお送り下さい。

写真はカラープリントまたは電子データいずれでも構いません。

原稿形式：手書き、ワープロ印字、メール添付などいずれでも結構です。

提出期限：12 月 15 日必着でお願いします。

送付先： 速水昭雄

## 【会員投稿、作品の募集】

毎号掲載している《会員の広場》に、趣味の話や旅行記、絵画、書、写真など気軽にご投稿下さい。

原稿の文字数は 600～800 字（多少の伸び縮みは構いませんが、なるべくこの程度）で、手書き・ワープロ原稿は郵送・Fax で、またメールで頂ければ有り難いです。

原稿は随時受け付けていますが、32 号の締切は 12 月 15 日になります。

投稿される際は、顔写真と原稿の内容が分かる写真を付けて下さい。

【送付先】 山田和美 宛

~~~~~



## 《連 載》

### ご当地自慢 『札幌市』

札幌市 萩原康司

はじめに

「ご当地自慢」について書いて欲しいと、再三の依頼を受け、札幌に自慢の出来るものがあるのか、改めて考えその歴史を調べるため少し歩いてみました。



北海道は、数万年前の氷河期にはシベリアと陸続きだったそうで、マンモスやオオツノシカなどの大型哺乳動物が渡って来ており、旧石器時代の地質調査では、2万年前の石器が北海道各地から発掘されている様です。

縄文時代には、北から北方民族が、南から多数の渡来人（アイヌ）が移住してきた。アイヌ伝説にとると、コロボックル（落の下の人）が北海道の先住民とされている。

室町時代から和人の渡来が増え、江戸時代には、渡島半島に松前藩がおかれ、時の豪商高田屋嘉平衛に代表される様に、交易が盛んとなった。

明治元年、当時の新政府は、蝦夷地に箱館裁判所を置き、翌2年には開拓使が置かれ蝦夷地から北海道と改称、行政機関として北海道開拓使を札幌に設置した。

それから、北海道も札幌も高々150年の歴史しかありません。

「さっぽろ」の語源は、アイヌ語の「サリ・ポロ・ベツ」から来ており、「乾いた・大きな・川」と言う意味だそうです。

気候は、日本海型で夏は爽やか・冬は積雪寒冷が特長で、四季の移り変わりが鮮明。

現在の人口は、190万人を越え、全国で5番目の大都市です。明治4年、札幌の中心部に、幅108m・長さ1.5kmの火防線が造られた。これが札幌を南北に分ける基準となった大通公園で、市民の憩いの空間です。（写真1）

春には、「ライラック祭り」が（5月下旬）。そして6月には、いまや全国的になった「よさこいソーラン祭り」が（6月8日～12日）に開催されます。

夏には、ビール祭りや焼きトウモロコシの屋台が並び、旅人を楽しませております。

冬には、ホワイトイルミネーションが灯され（写真2）、昭和25年から始まった「札幌雪まつり」が2月に開催され、いまや世界的なイベントでもあります。

最初は、学生のいたずら心から作られた小さな雪像がヒントになって始められたと聞いております。では、札幌の名所とおぼしき所を案内させていただきます。

#### 1、札幌市時計台（写真3）

札幌のシンボルである時計台は、旧札幌農学校の演武場として明治11年に建築された。

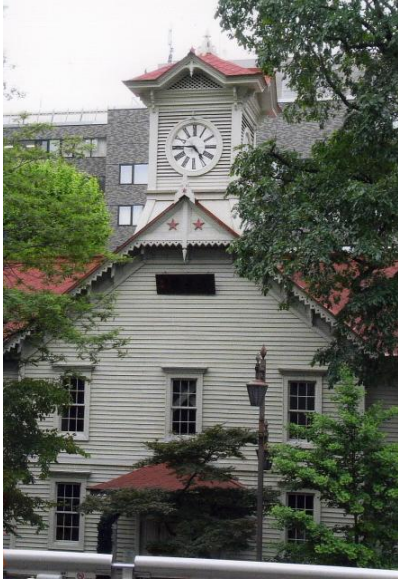
当時、アメリカで流行していたバルーンフレームと呼ばれる木造建築様式をモデルとし、時計塔の4面に文字盤をもつ大時計はボストン市ハワード社製で、動力におもりを利用した機械式時計です。



大通公園（写真1）



ホワイトイルミネーション（写真2）



札幌市時計台 (写真 3)

たまたま、中学時代の友人が井上さんと親戚と言う事で、昭和 25 年頃（中 3）塔屋の一番上まで螺旋階段を上がり、重りの巻上げを手伝った事があります。

重りは、運針用が 50 キロ・打鐘用が 150 キロ、週 2 回の巻上げが必要との事です。

久しぶりに時計台を見学し、子供心にその巻上げが大変重かった事を、懐かしく思い出しております。

時計塔正面下部の「演武場」の文字は、明治維新の元勳岩倉具視の筆となります。

札幌を訪れた方が、ビルの谷間に建つ時計台を見て、そのアンバランスに驚かれます。

時々、郊外の羊ヶ丘展望台（写真 4）への移転の話が出ますが、どういう訳か立ち消えになってしまいます。この時計は、昭和 8 年から今日まで、狸小路で時計店を営む井上さん親子二代により管理され、たゆまず時を刻んできております。



羊ヶ丘展望台 (写真 4)

## 2、旧北海道庁赤レンガ (写真 5)

明治 21 年、北海道開拓使の初代長官岩村通俊によって建築されたアメリカ風ネオ・バロック様式で、以来約 80 年にわたりその役割を果たして来ました。

現在は明治時代の洋風建築物として国指定の重要文化財として保存されております。

間口 61m・奥行 36m・高さ 33m、現在のビル 10 階建にあたります。

前庭を使って、ミニコンサートやビヤガーデンが開かれております。

現在の北海道庁は、赤レンガのすぐ裏てに建っております。



旧北海道庁赤レンガ (写真 5)

## 3、豊平館（ほうへいかん）(写真 6)

明治 13 年に、北海道開拓にあたる外国人技師のための洋風ホテルとして建築された。

翌年、明治天皇行幸の宿泊所として、また大正天皇・昭和天皇が皇太子の時代に三代に亘って宿泊された由緒ある建物です。

現在は、札幌市営の結婚式場として、また音楽会・会議・会食など市民に広く開放され親しまれております。私も、訪れた記念としてレストランでビールを飲んでみました。



豊平館 (写真 6)



#### 4、八窓庵（写真7）



八窓庵（写真7）

内部は、侘びに徹した草庵風の構えになっており、広さは畳み2枚半位の狭い小間で、その名の通り8つの窓を持ち、この窓によって空間を広く見せているそうです。残念ながら、中へ入る事が出来ず、その狭さを体感できませんでした。

#### 5、琴似屯田兵村兵屋跡（写真8）

明治7年開拓使は、最初の入植地を札幌の西に位置する琴似と決め、屯田兵約200名、家族を合わせて1,000名を入植させたのが北海道開拓の始まりです。

屯田兵とは、普段は開墾や耕作に従事し、必要時には武器を持ち、兵士となって北海道の安全を守るという二つの役目を持っており、その後北海道37箇所に入植が実施され、厳しい自然条件のもと開拓と軍事訓練が行われたようです。

私が行った時、丁度管理の方が帰るところでしたが、門扉を開け、わざわざ格子戸も開け室内に光を入れて下さった事に変感激しました。

戦後の私たちは、木造のバラック住宅でしたが、この兵屋の天井は吹き抜け、暖房は囲炉裏のみで、冬の寒さは想像を絶するものがあり、頭の下がる思いがしました。

この文書を書くにあたり、私の住む札幌を、改めて見直す機会を頂きました。

土曜日に、時計台・道庁・豊平館・八窓庵と回り、日曜日にテレビ塔・琴似の屯田兵屋へ出掛けました。



大倉山ジャンプ台（写真9）

この庵は、小堀遠州の作と言われている草庵風茶室で、約400年の歴史があります。

遠州は、江戸初期の大名で、家康の隠居城である駿府城の作事奉行を勤めた方です。

滋賀県長浜市から大正8年に移築され、現在は豊平館の直ぐ側に建っております。

遠州は、茶道を千利休の高弟古田織部に学び、徳川家の茶道指南役を勤めた方です。



琴似屯田兵村兵屋跡（写真8）



北大ポプラ並木（写真10）

久しぶりにテレビ塔に上がったり、絵葉書を探したりと予想外に時間が掛かり、大倉山ジャンプ台（写真9）・



フジの老木（写真11）

北大のポプラ並木（写真10）等回る予定でしたが、絵ハガキと言う姑息な紹介ですので、文章は省かせて頂きます。

私は天神山と言う小高い山の麓に住んでおります。その隣に、個人の持ち物ではありますが、樹齢200歳というフジの老木（写真11）があります。

フジ棚の大きさは、縦横25mもあり、写真にはその半分しか写っていません。

6月初旬最盛期には、連日多くの見物客で賑わっております。

ご当地自慢には入らないと思いますが、私の小さな自慢として紹介させて頂きました。

平成23年6月28日

~~~~~

### 《編集後記》

FAR 雑誌第31号を送付致します。今回は、10月28日（金）～30日（日）の3日間、神戸国際会議場にて開催される第39回秋季学術大会「明日に架ける橋ー 生命の光を技で紡ぐー」の学術企画と FAR 会員親睦「2011 淡路島を巡る旅」のお知らせ致しました。淡路島の絶景を堪能し、懇親を深めるために是非多数の参加をお待ちしております。

コスモスは、明るく澄んだ秋の野原に可憐なピンクの花を咲かせる。何処にでも在る平凡な花だが、日本の風土に良く馴染み、秋には欠かせない代表的草花とも言える。コスモスはキク科の一年草で、アキザクラとも言う。

見た目には、弱そうだが、風で地面に倒れても、地に接した所から根を出して、又花を咲かせて、子孫を残すという強い生命力、忍耐力を持っている。（原産地は、メキシコで、中央高原の2400～2700メートルの所に自生していたという）。日本に勇気を与えてくれた、女子サッカーなどでこ日本の「諦めない」に何か通じる様な気がする。

コスモスは、勇気ではなく、香りは確実に皆様に与えてくれる。

（伊藤博美、記）



#### FAR 情報誌 No. 31(非売品)

発行日 平成23年9月15日  
発行者 橋本 宏  
編集委員会 山田和美（委員長）  
伊藤博美 森 克彦  
石井 勉